



# 主権は官邸にあららず、主権在民

## 2019年8月、“ハマのドン”こと藤木幸夫がカジノ阻止に向けて立ち上がった。御年91歳。

地元政財界に顔が効き、歴代総理経験者や自民党幹部との人脈、田岡一雄・山口組三代目組長ともつながりがあり、隠然たる政治力をもつとされる保守の重鎮だ。その藤木が、カジノを推し進める政権中枢に対して、真っ向から反旗を翻した。今の時代が、戦前の「ものを言えない空気」に似てきたと警鐘を鳴らし、時の最高権力者、菅前総理と全面対決した。決戦の場となったのは横浜市長選。藤木が賭けたのは、住民投票条例の署名を法定数の3倍をも集めた市民の力だった。裏の権力者とされる藤木が、市民とカジノ反対の一点で手を結び、時の総理と官房長官が推し進めた「カジノ誘致」国策阻止を成し遂げた。パーソナルな話題があふれるこの情報社会の中で、本来の保守とはなにか、人心を動かすとはどういうことか、社会のありよう、メディアの在り方、民主主義とはなんなのか。

本作を手掛けた監督はテレビ朝日の「報道ステーション」プロデューサーを務めた松原文枝。プロデューサーは「テレメンタリー」の江口英明と「民教協」の雪竹弘一。ナレーションにはリリー・フランキーが加わった。藤木が市民と手を取り合い、カジノ誘致を覆したその軌跡を追うとともに、市民の声が届かない今の時代の政治権力をどう見るのか。ここには一条の光がある。

### 港の親分。保守の重鎮。

世界のカジノ王「ラスベガス・サンズ」CEOのアテルソンは、日本進出を狙っていた。1兆円と言う巨額の投資額。ターゲットは横浜港の山下ふ頭だった。藤木が長年仕切ってきた現場だ。アテルソンは、トランプと安倍の首脳会談の前に開かれた朝食会にも出席している。態度を曖昧にしてきた市長の林文子は、カジノ誘致に向けて動き出した。これに敢然と立ち向かったのが藤木幸夫だった。藤木は横浜大空襲を生き延び、父親の時代からの港湾を引き継いできた。その中で博打だけはだめだと立ち上がったのだ。

身体を張った勝負師の行動は、多くの市民、自民党の長老、カジノ側の人物までも動かす。カジノ関係者が公にしたその実態は驚愕だ。一方、市民のカジノ反対の動きは燎原の火のごとく広がっていた。だが、その声は届かず、横浜市長選に持ち込まれた。藤木は無名の新人を押し立て、現職市長、そして、菅側近の現職閣僚を相手に闘うことになる。無謀とも言える闘い。その行方は――



- ◆ エル・おおさか南ホール（南館5階）
- ・ Osaka Metro 谷町線・京阪電鉄「天満橋駅」より西へ300m
- ・ Osaka Metro 堺筋線・京阪電鉄「北浜駅」より東へ500m

主催

大阪シナリオ学校 浜田 紀男（事務局長）

[TEL] 090-4309-4739 [E-mail] hamadanorio39@yahoo.co.jp

※このチラシ持参の方は「前売り扱い」とします。

hama-don.jp

